

ビキニ被災検証会ニュース NO2 2015・11・20

第2回「ビキニ被災検証会」報告

11月8日、東京都内で15名の参加で第2回「ビキニ被災検証会」が開催された。

1) 高知県ビキニ「相談会」報告 一土佐清水市・黒潮町

10月31日：フィールドワーク＝高知県土佐清水市で、高知県歯科医師会の協力を得るきっかけを作っていた西村歯科医との懇談し、今後の研修や歯の入手について相談する。血液検査をうけた第5海福丸・山中さん宅訪問し、奥さんとお孫さんを交えて健康相談する。広島より星・鎌田先生、第5福竜丸平和協会の安田・市田さん、民医連の宮武さん、第7大丸遺族の下本さん、吉良県議・前田市議、支援センター山下・上岡、朝日・西村、共同・杉山さんの12名の参加だった。

お食事処「あしずり」で広島の田中・星・鎌田先生たちを囲む夕食会に参加。清水サバなど新鮮な魚料理をいただき、率直な意見交流がされ、おおいに盛りあがった。

11月1日：土佐清水市での県主催「健康相談会」

10:00~12:00 「講演会」星・田中・鎌田先生

13:00~15:00 個別相談 と生活相談（情報交換）を並行

15:10~16:00 記者インタビュー（各先生と被災船員・遺族）

広島より民医連・藤原先生も到着し、科学者2・医師2・地元の医療関係者2、被災船員9・家族・遺族8、県・市福祉課職員・保健婦、支援センター・地元調査協力者、報道関係者など60名、1回の室戸「相談会」の2倍近い参加であった。

先生方の講演も、被災船の航路・放射線量、当時の本人状況、歯・血液分析、本人の症状を結びつけた具体的な説明がされ、参加した元船員から「よく解った」との感想と当時の被災状況、仲間の病死、現在の病状など活発な意見がだされた。午後の個人面談は、被災船員・遺族全員が希望され、2班に分かれての相談となり、記者会見で、田中先生より「船の航路・放射線量、当時の本人の状況、本人の症状の3点がそろえば、被ばくの実証に近づける。今後、歯の提供を呼びかけるなど研究者としてできる協力をしたい」と感想を述べられた。

11月2日：黒潮町で「支援センター」主催の「相談会」

星先生、安田・市田学芸員、「支援センター」協力者によって、黒潮町・宿毛市から5名の被災船員が参加し、1人1人の聞き取り調査と「相談」がされた。

両日の相談会では、「被災船員・遺族が救済に強い関心を持って動き出した」という印象をうけた。また、船員保険に入っていない船や、検査のない港に魚を揚げるなどの船があること、これまで第13光栄丸の生存者は1名だと言われていたが、同じ集落にもう1人いることなど、新しいことがわかった。

5人が労災申請を希望

現在、船員（労災）保険適用申請の手続きを希望される元船員は5名（第2幸成丸／第7大丸／第5明賀丸／第5海福丸／第13光栄丸）。いずれも、検査で（歯1名、血液検査5名）約80～300ミリシーベルトの推定線量が立証されている。当時または2年前に元船員が血液検査をしていて、高線量の被ばく

をしていると思われる重要な船があと4隻(船員の所在地)―第8順光丸(神奈川)・第11宝成丸(仙台)・弥彦丸(岡山、愛媛)・神通川丸(兵庫など)―あるので、今後船員(労災)保険適用申請を打診していく。

来年1月10～12日に間間医師(静岡ビキニ研、生協きたはま診療所)が高知県を訪れ、現在の申請希望者5人と面談を予定。

来年2月中に第一次の申請をおこない、3・1ビキニデーの集会で報告できるよう準備してゆく予定。

2) レクチャー①

第五福竜丸展示館・市田真理さんから「公開公文書の評価と残された検証問題について」のレクチャーをうけた。

文書が存在がわかっているのは外務省・厚生省・水産庁・海上保安庁のほか、省庁をまたがる「省庁連絡会議」(のちの放射能対策本部)のもの。開示資料のポイント①危険区域の通達があったかなかったか、②汚染魚の検査=1954年12月末以降も調査していた可能性あり、③放射線量の許容量の考え方にある。全貌をあきらかにすることは急務。このためにも展示館所蔵の資料を有効に活用することを提起。

また独立行政法人水産総合研究センター国際水産資源研究所(旧遠洋水産研究所)(静岡市清水区)の保存資料調査も提起された。

3) レクチャー②

豊崎博光さんからは、「自由連合協定とマーシャル諸島核実験被害補償」について詳細な資料による報告をうけた。1986年に発効したアメリカとマーシャル諸島政府との自由連合協定は、アメリカがマーシャル諸島の放射線被ばくの責任を認め、1946年から1958年まで67回の核実験期間中にマーシャル諸島に居住していたマーシャル諸島住民にたいする被害補償「放射能補償協定」を決めた。これは放射能によって引き起こされた病気に対する個人補償約4500万ドルと汚染された4環礁の資産補償約1億8300万ドルの二つを含み、2003年時点でガンを中心とする36の病症を補償金支払いの対象とした。しかし現在は資金が枯渇したため個人補償の支払いができない状態にある。また2003年にはアメリカのマーシャル諸島住民への補償が全て打ち切られている。このため追加補償の要求が出されているなど、改めて核実験補償問題がクローズアップされている状況にある。

4) 会の会則について検討

和田忠明さんより、ビキニ被災検証会会則(案)が提案され了承された。共同代表に間間元、和田忠明、事務局長に山下正寿が選出された。

間間代表より、「ビキニ被災船員救済検討チーム」の素案が提案された。申請準備に沿って弁護士、平和団体関係者の協力で組織される予定。

■次回開催について

第3回「検証会」は2月28日午後、静岡で開催予定。29日午前―水産庁の情報公開により、静岡市の旧「遠洋水研」にあることが確認されたすべてのマグロ漁船の操業・被災記録を閲覧予定

3・1ビキニデーの行事と調整して準備中。

●会費募集―会則に沿って、個人1口1000円・団体1口10,000円を来年度(2016年度)を含む会費として参加呼びかけ・相談をしてください。郵便振り込み口座記号01620-2口座番号129465 幡多地域文化ゼミナール館